

第3回石子沢川流域水害対策協議会の開催概要



- 令和7年3月26日に「第3回石子沢川流域水害対策協議会」を開催。
- 計画（素案）に対するパブリックコメントの意見等を踏まえ見直した「石子沢川流域水害対策計画」を了承いただき、計画が策定された。
- 計画策定を受け、今後の流域治水の推進について、協議会委員から意気込み等メッセージをいただいた。



やすおか
東北地方整備局 安岡副局長

- 計画は、田んぼダム、農業用水路を活用した雨水の排水、公共施設の再配置と雨水貯留施設の整備、防災教育の取り組みなど、流域のあらゆる関係者が連携する内容となっており、全国の流域治水のモデルとなるような計画だと考えている。



なかやま まち さとう
中山町 佐藤町長

- 公共施設の再配置に伴う雨水貯留施設の整備など町でも取り組みを進めていくが、流域の関係者による協力がなければ、効果が実現されない。
- 関係者による推進を担う組織を立ち上げて、計画を実行していく。



やまの べまち さとう
山辺町 佐藤副町長

- 石子沢川流域における住民生活の安全・安心がしっかり確保されることを強く期待したい。
- 山辺・中山両町で災害協定を締結し、お互いの状況をより一層緊密に共有し、防災・減災に向けて連携して取り組んで参りたい。



なわの
最上堰土地改良区 縄野理事長

- 最上堰の活用や田んぼダム推進等、土地改良区への期待もかなり大きいように感じる。
- 大雨時の施設巡回など改良区だけでは限界があるので、国、県、町からも絶大なる支援と、関係機関の連携が密になるよう体制を構築していただきたい。



ほそや
ゲンサイデイズ 細谷代表

- 防災意識の熟成、本来の流域治水のあり方、意義というものをより広く、住民そして県民全体に発信周知していく必要性を強く感じた。
- 持続可能な郷土への思いを育むため、防災減災教育を一層推進していく。



おおつ
山形県村山総合支庁建設部 大津部長

- 計画に位置付けした石子沢川や新堀川の管理をしっかりと行い、被害低減に取り組むとともに、引き続き関係機関と連携し、貯留機能保全区域の検討なども進める。
- 石子沢川流域の取り組みをモデルとして他の河川へ特定都市河川事業を展開していきたい。



- 【出席者】 上記写真左から**
東北地方整備局局長（代理） 安岡副局長
気象庁山形地方気象台 有賀台長
ゲンサイデイズ 細谷代表
山辺町長（代理） 佐藤副町長
中山町 佐藤町長
最上堰土地改良区 縄野理事長
東北農政局農村振興部長（代理） 平山地方参事官
山形県知事（代理） 大津村山総合支庁建設部長